

それではそのような現状を打破するには、どのような改善策があるのでしょうか。先生は私たちにその一つとして、「ひきこもり」に対する考え方の意識改革をご提案くださいました。「ひきこもり」というと何か現状から脱落した否定的なイメージがつきまといます。そうではなく私たちが「ひきこもり」に対しする考え方を変えて、普通の真面目すぎる人という理解を保持しないといけないのです。

また先生からは、そのようなひきこもりの方に関わる時に、弱さや傷跡をさらけだすことの大切さを学びました。一方的に手を差し伸べるのではなく、相手に信頼してもらい、まずは向こうから心を開いてもらうことが大切です。それには、まずこちら側がどのような弱さを抱えて、どのような苦しい思いをしているかを伝えないといけません。ただ私たちとしても、あえて短所をさらすことは恥ずかしいことですし、相手に確かに伝わるかはわからないことですが、それでもこちらから弱さと傷を見せ、信頼してもらうまで待つしか有効な方法はないのです。

私たちみのりサポートは本日の木原先生の講演から多くのことを学びました。まず地域の高齢者支援やお一人で生活困難な方を支援する我々としましては、実際は支援を必要としているのにその声をあげることができない存在がいることを常に念頭に置かないとなりません。私たち、いわゆる支援をする側は、どうしても支援対象の方を、何かが不足し支援を必要としていると捉えがちです。けれどもこのような姿勢では、本当に支援を必要にしている方に対して一方的な上から目線となり、結果としてそのような方に頼ってもらうのが難しい環境を作ってしまいます。この点を私たちは自戒しなければなりません。

そして支援者でありながら同じ目線で相手と向き合い、良き伴走者となるには、弱さや傷をさらけださないとならないことも、私たちは常に意識しなければなりません。それには私たちの日々の活動の実態、私たちの想い、私たちがいかに困難な状況に向き合いそれを克服しようとしているのかを、しっかりと伝える必要があります。まだ設立して一年も経たない組織ですが、自分たちの限界と時に失敗があることも公正に開示し、その中で出来る限りのサポートを提供し、皆様の信頼を得ていけないといけないと考えました。

